

「雨に強いまちづくり」の推進について

平成26年10月27日（月）

京都市建設局土木管理部河川整備課



雨に強いまちづくりのイメージ



1 浸水被害の最小化に向けて

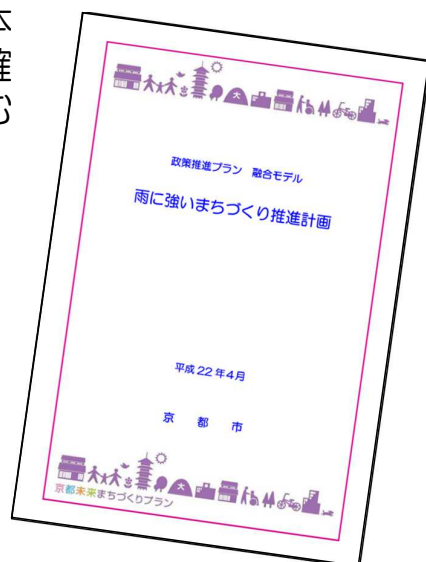
近年、全国的な激しい集中豪雨の多発や都市化の進展に伴う不浸透域の増加に伴い短時間に大量の雨水が流出しやすくなった結果、都市型浸水による被害リスクが増大しています。

このような状況の下、被害の最小化を図るためには、ハード中心の対策から、住民自らの災害対応やこれを支援するソフト対策を組み合わせた総合的な対策へと転換する必要があります。

また、ハード対策についても、「雨水の排除」を主体とした方策を転換し、「貯留浸透による流出抑制」を的確に組み合わせて、行政と地域の関係者が一体で取り組むことが求められています。

これらを踏まえ、関係主体が、地域特性に応じた総合的な視野に立った効果的な対策の実施を通じて「雨に強いまちづくり」を目指すものです。

雨に強いまちづくり推進計画 平成22年4月策定



雨に強いまちづくりのイメージ



2 流域全体における雨に強いまちづくり

流域全体



雨に強いまちづくりのイメージ



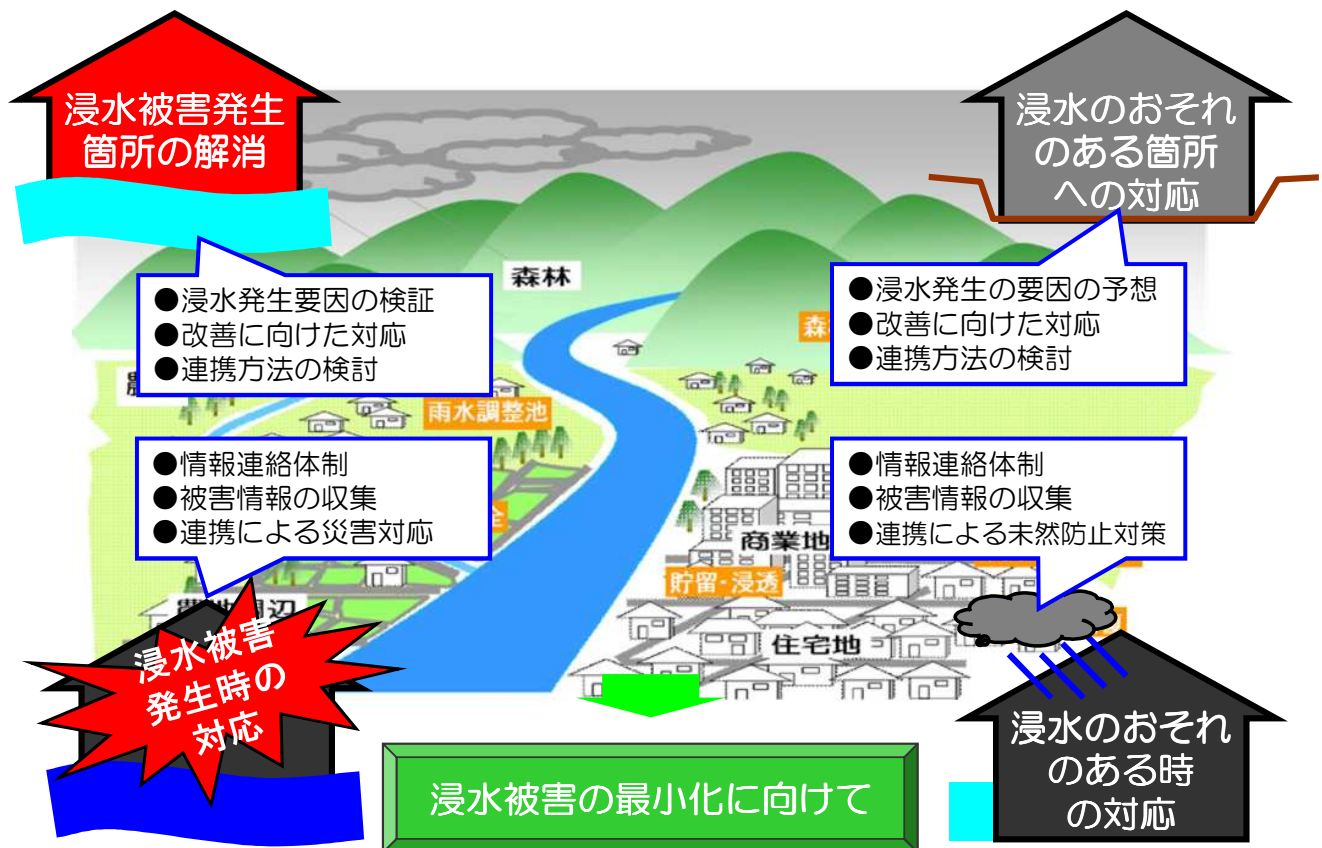
3 都市部における雨に強いまちづくり

都市部

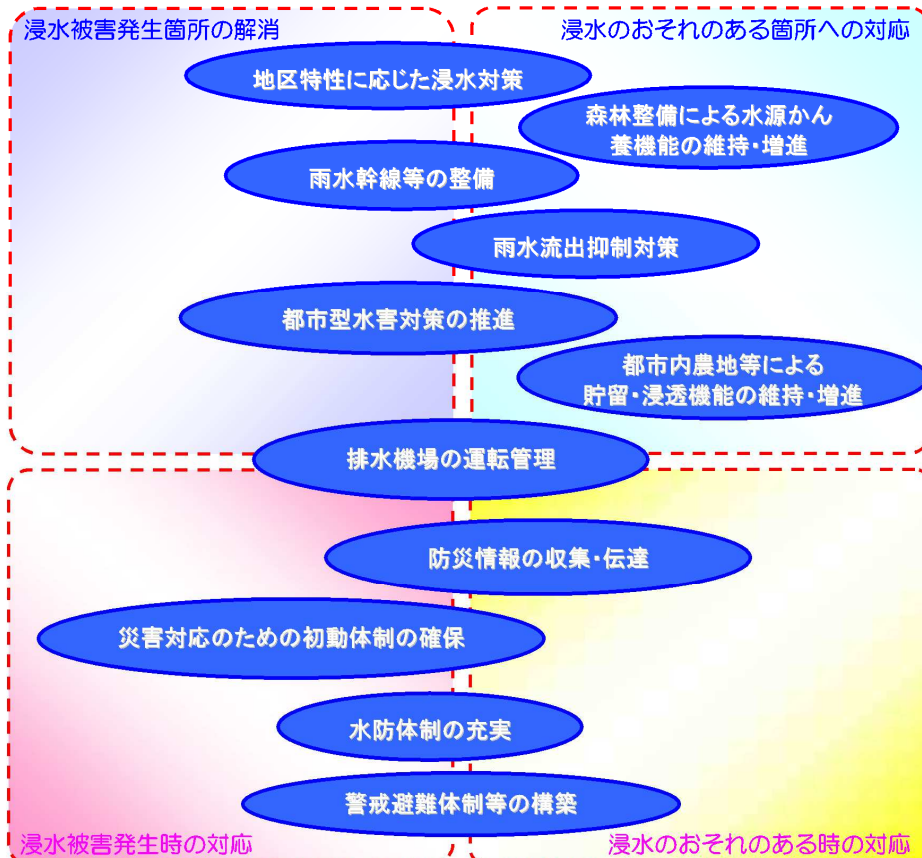




4 災害の発生過程に基づいた取組



5 災害の発生過程に対応した対策のイメージ



取組事例



① 治水事業

近年頻発している局地的大雨や、急激な市街化により発生する浸水被害に対処するため、より重点的な治水対策を実施する必要がある区間として指定した都市基盤河川について、早期の治水効果発現に向け整備を進めています。

改修済み区間の様子



西羽東師川



善峰川



西高瀬川



新川



岩倉川



七瀬川

取組事例



② 排水路整備事業

普通河川や一般排水路は、市民生活に身近な水路であることが多く、安心・安全の確保に直結する、迅速で適切な対応が必要な施設です。排水路整備事業では、それらの水路について緊急性が高いところから順次改修を進めるとともに、浚渫や補修等の適正な維持管理を行っています。

整備事例（普通河川改良事業）



奥殿川

[改修後]



杉坂川

[改修後]



[改修前]



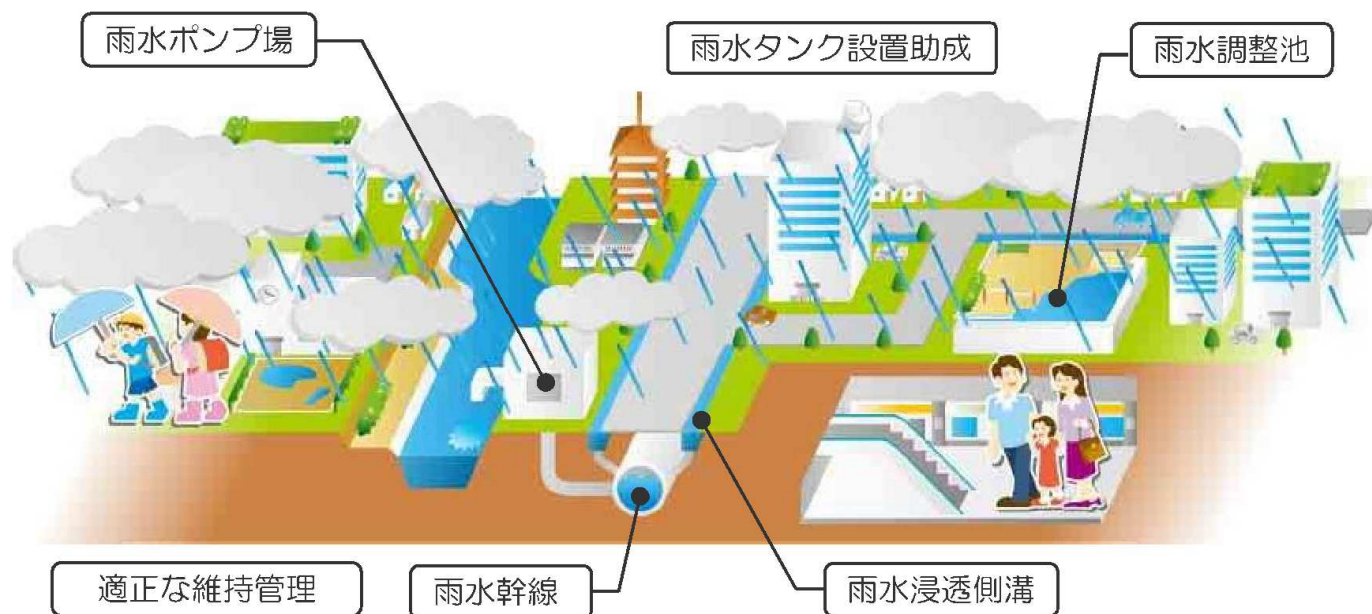
[改修前]

取組事例



③ 下水道「浸水対策」事業

大雨による浸水被害から、生命や財産を守るため、雨水幹線やポンプ場等を整備するとともに、雨水の流出量を抑えるため、雨水貯留浸透施設の整備や普及促進に取り組んでいます。



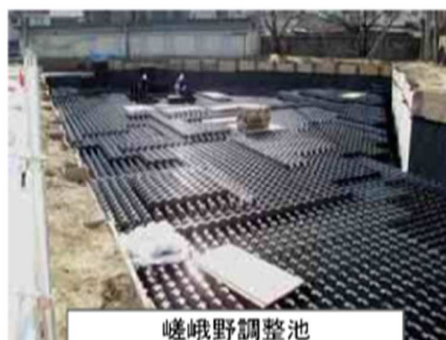
取組事例



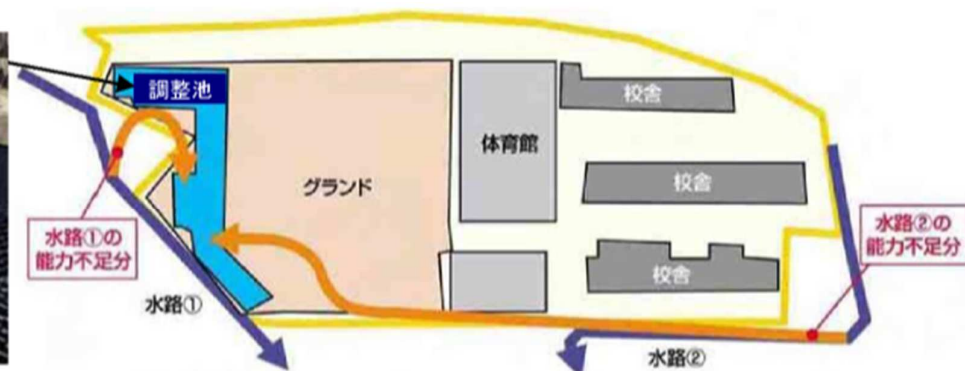
③ 下水道「浸水対策」事業

雨水の貯留施設として、雨水幹線に加え、公共用地等を活用して雨水調整池を整備しています。

雨水調整池の整備



嵯峨野調整池
(中学校グラウンド地下)



取組事例



③ 下水道「浸水対策」事業

「雨水貯留施設設置助成金制度」により、住宅、事業所等への雨水タンクの設置を促進し、雨水貯留・雨水利用に係る普及啓発に取り組んでいます。

また、雨水を地中にしみ込ませるために、浸透側溝の整備にも取り組んでいます。

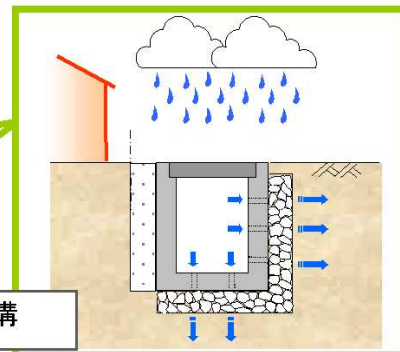
雨水貯留浸透



雨水タンク



浸透側溝



取組事例



④ 公園整備事業

公園の整備においては、降った雨を地下にしみ込ませる浸透樹の設置や、透水性舗装の使用を進めています。これは、大量の雨が降った時に、水が一度に流れ出て、水路があふれることを抑制するとともに、植物の吸収・蒸散作用により、水の循環効果を高めています。

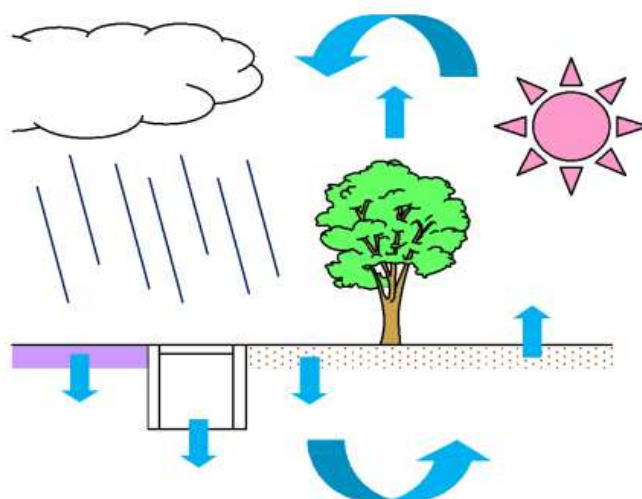
整備事例（城ノ前公園）



透水性のある舗装材



浸透樹



取組事例



⑤ 森林整備事業

森林が持つ公益的機能（雨水の流出抑制，水源のかん養，地球温暖化の原因となる二酸化炭素の吸収など）を十分に発揮させるため，間伐などの森林整備の推進に取り組んでいます。



機械による間伐作業



健全な森林



間伐遅れの森林



森林内作業路の整備

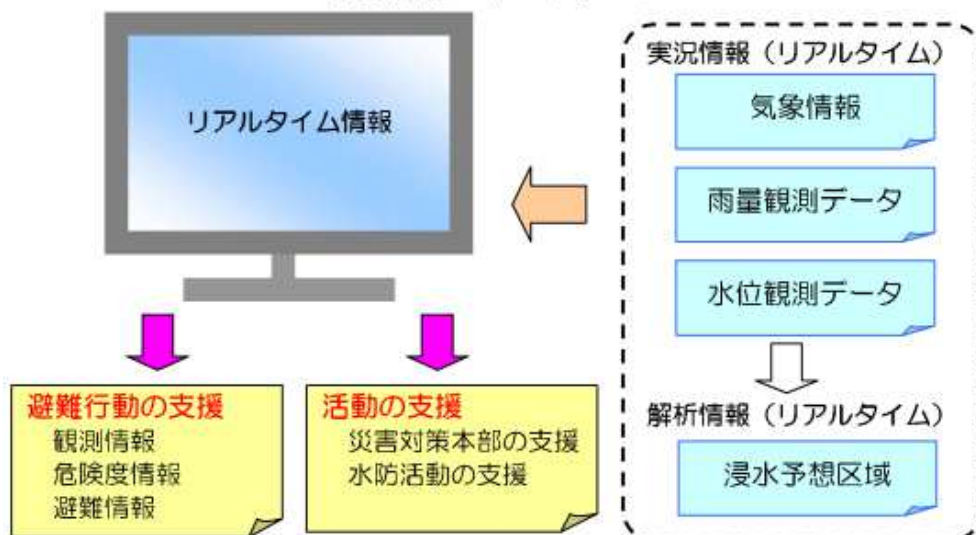
取組事例



⑥ 京都市水災情報システムの整備

京都市域及びその周辺で観測する雨量情報（約100箇所），河川水位情報（約50箇所），気象予測情報等をリアルタイムで収集し，下水道の排水能力などの情報を取り込んで，浸水被害を予測する機能を有しています。これにより，堤防の危険個所が決壊した場合に加え，市街地に大雨が降った場合に，浸水が発生する時期，範囲，規模を解析し，京都市及び各行政区の災害対策本部等がより早く，よりの確な水災対策活動を行うことが可能となります。

水災情報システムのイメージ



取組事例



⑦ ハザードマップ（京都市防災マップ「水災害編」）の作成，全戸配布

近年の局地的大雨により，中小河川や水路，下水道等の内水氾濫においても大きな浸水被害が発生しています。このため，京都市防災マップ「水災害編」においては，河川の氾濫による浸水想定区域を基にした洪水による浸水の危険性に加え，新たに河川氾濫がない場合の過去の浸水実績を基にした市街地における浸水想定区域についても重ねて表示しました。また，裏面には，水災害の知識や地下施設やアンダーパス道路の危険な箇所解説に加え，市民の皆さんが身近なもので浸水を防止する方法などについても記載しました。

浸水想定区域図（表面）



水害の情報（裏面）



取組事例



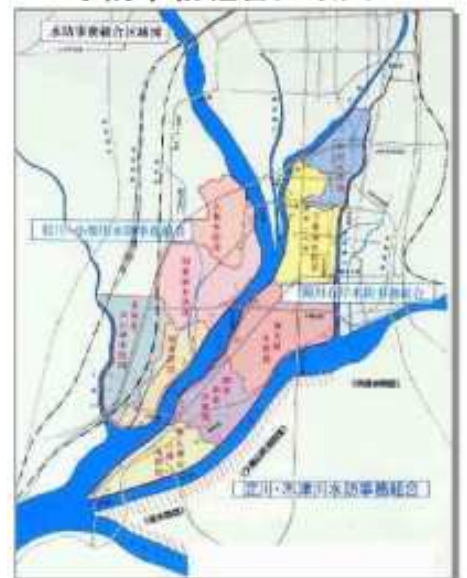
⑧ 水防体制の充実

大雨，洪水，暴風雨等により発生する災害を防ぐため，消防局本部，消防（分）署（12署），消防団（11団），消防分団（205分団）に水災警防本部を設置し，組織及び人員の強化並びに部隊の増強を行うとともに，連携して活動を行います。

また，歴史的に水害の多発している市南部地域においては，隣接する市町と共同して澁川右岸水防事務組合，桂川・小畑川水防事務組合（事務局：建設局土木管理課内）及び淀川・木津川水防事務組合（事務局：宇治市）が設置されており，地元住民で組織された水防団による水防活動を行います。

水防事務組合が担当する水防地域においては，消防機関と水防団は相互に協力し，効果的な活動を行います。

水防事務組合区域図

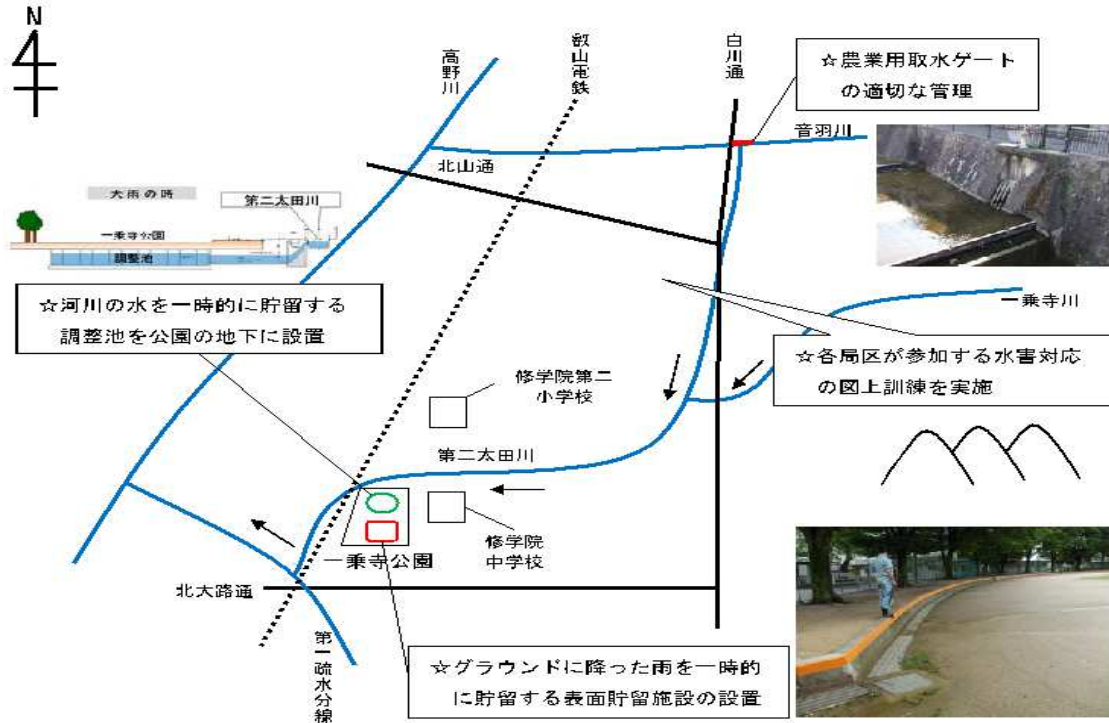


取組事例



⑨ 浸水対策の融合

左京区第二太田川周辺において、農業用水の適切な管理や、公園の地表面を利用した雨水貯留、地下調整池の整備など、個別では大きな効果が期待できない取組を融合させて実施することで、治水対策の早期実現を図っています。



推進体制

